

学校プロフィール

学校名 (鈴鹿市立愛宕小学校)

【平成 29年 4月】

1. 目指す学校像について

項目	内容
(1) 目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標 「主体的に学び、主体的に考え行動できる児童の育成」 めざす学校像 「子ども同士が繋がり合い、優しさと笑顔あふれる学校」「地域や保護者に信頼され、ともに創り上げる学校」 <p>① 児童が安心して、安全に楽しく学べる学校 ② 確かな学力・体力の育成を目指し、日々の学習を大切にする学校 ③ 誰に対しても思いやりと感謝の気持ちをもち自主的に関わられる子を育てる学校</p>
(2) ありたい姿 (実現したい学校の状態) 今の学校が「目指す学校像」に向かうため、こうでありたい」と考えている具体的な学校の状態や目標について、記入してください。	<p>1 子どもが確かな学力を身に付けている。 2 子どもの人権感覚が高まっている。 3 子どもが健やかに生きていくための身体がつくられている。 4 子どもたちに学習規律・生活規律が身に付いている。 5 「自分の命は自分で守る」力が身に付いている。 6 安心・安全な環境が整っている。 7 地域と連携し、学校が開かれている。 8 職員の組織を活用したOJTや研修が進み、全職員の資質向上をめざしている。 9 効率的に業務が行われ、時間内に業務を終えている。</p>

2. 現状の認識について

(1) 「価値」を提供する相手方		
① 相手方の区分	②現在の要求・期待	
児童	楽しい学校、友達がたくさんいて、先生も一緒に遊んでほしい 勉強が分かりたい。そして、認められ、褒められたい。	
保護者	元気に楽しく登校してほしい。いじめのない学校。学力向上。 心と体の健やかな成長。	
地域	ルールを守り、元気よく挨拶をする子に。郷土を愛する子に。 学校の様子を聞かせてほしい。地域に貢献できる子を育ててほしい。	
進学先	規律正しく、基礎基本の学力が身についている。いじめがない学校。 コミュニケーション能力を育ててほしい。	
(2) パートナー		
①パートナーの区分	②パートナーからの要望・期待	③パートナーへの要望・期待
保護者	学力保障。いじめ防止。 健やかな成長。	基本的な生活習慣の定着。子どもへの温かい愛情と会話。子育ての主体者としての自覚。
教育委員会・関係機関	学力保障。人権尊重の精神。 社会に対応し、地域を愛する子。	授業に専念できる環境整備。必要ときに繋がれる連携機関の確保。
地域	郷土を愛する子。元気よく挨拶。 ルールを守る子。	ともに子育てをしていける地域、サポーターとして繋がっていける地域。学校支援。
学校運営協議会	開かれた学校。	客観的な評価。地域への情報発信。
(3) 組織の現状 「ありたい姿」の実現に向けて、現在、認識している学校の状態や学校を取り巻く環境について、記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> 他人の気持ちや感謝の気持ちが受け止められない児童が見られトラブルも起こりやすい。周囲に左右されず自分で考え、言葉や行動で伝え合う力の育成が必要。 過保護傾向、経験や体験の場が少ない家庭環境を踏まえ、学校運営協議会を中心に保護者・地域と協力しながら主体的に考え行動する子ども育む必要がある。 年齢が上がるにつれて自己肯定感が下がる。学級集団やなかよし班など子ども主体の活動を中心につながりあう経験をさせながら人権教育の充実を図っていく必要がある。 低学年時から学力の二極化がみられる。低学力児童や学習への心構えが不十分な子どもへの支援方法、家庭との連携、授業改善が課題。 	

3. 目指す学校像実現のための重要な視点(方針)について

(1) 重点化に向けた視点「ありたい姿」の実現に向けた学校の重点取組を導き出すための、学校経営における重要な視点や方針を記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> どの子にとっても居心地の良い学級集団の中で、基礎基本の学力をつけ自主的に考える力、書く力、自分の考えを伝える力を育む授業力向上に全職員で取り組む。 子どもたちが活躍する機会を増やし、自尊感情、自主性と子どもたち同士のつながる力を育てる。 集団生活のルールを守り、自分自身を律して粘り強く行動できる子どもを育てる。 子どもの思いを聞き、寄り添える教師集団をめざす。(いじめ、学力保障等) 学校組織の一員としての自覚を持ち、組織的な教師集団をめざす。 学校の抱える教育課題を明確にし保護者・地域へ啓発、意識改革を図る。(発信、講演)
---	---

<p>(2) 上記の背景・理由「重点化に向けた視点」に記入された内容を重視している背景や理由について、記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指示待ちの児童が多く、自主的に考え行動する力が弱い。自分の考えを持ち、学習面や生活面において発言や行動が取れる力をつけていくことが必要。 ・すべての児童が自信を持って次年度に進めるように、早期から効果的な少人数教育，習熟度学習に取り組む。 ・子どもたちのつながりの希薄さから様々な人間関係のトラブルが発生している。子ども達自身につながる力がつけられるように，教師側の仕掛けや工夫が必要。 ・集団生活や授業規律のルールについて，教師の共通理解と徹底，根気強い指導が必要。 ・教師が子ども一人ひとりの置かれている環境や思いに十分寄り添うことで自分らしく生きること自信を持てる子が増えてきている。 ・教師全員が情報共有しながら学校の児童全体を見ていく姿勢ができてきている。 ・めまぐるしく変わる教育改革に対応できるように全教職員が積極的に学ぶ姿勢を持ち，組織的に向上していく必要がある。 ・子どもに生きる力をつけていくための愛宕コミュニティ・スクールを推進する。
--	--